

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

| | | | |
|---------------|---|-------------|---------|
| 科目名(英) | 研究ゼミナールA | 授業コード | C172420 |
| 担当教員名 | 杉浦 嘉雄 | 科目ナンバリングコード | |
| 配当学年 | 3 | 開講期 | 前期 |
| 必修・選択区分 | 建築コース 選択 インテリアデザインコース 選択 環境・地域創生コース 選択 | 単位数 | 2 |
| 履修上の注意または履修条件 | 杉浦研究室に配属された学生のみ履修することができます。 | | |
| 受講心得 | 何を自分の職務とするか、自身の人生の目標を見定めながら研究室を選択し、それぞれの課題に取り組んでください。 | | |
| 教科書 | 適宜、参考図書を紹介します。 | | |
| 参考文献及び指定図書 | 優良図書を随時紹介します。 | | |
| 関連科目 | 特に、研究ゼミナールB 卒業研究 | | |

| | |
|-------|--|
| 授業の目的 | 専攻するコースを決定した学生は、各自が専攻したコースについて、2年生までにそのコースの専門科目を履修し、多くの知識を得ています。しかしながら、それらの内容は、長年にわたる現場での経験や研究成果により確立された知識であり、実際には現在の土木工学において未解決の問題も多く残されています。本科目では、専攻した専門分野に関して、教科書ばかりではなく論文、雑誌、ビデオおよび専門書等を教材として取り挙げ、質疑応答形式で理解を深めます。また、専攻したコースのうち、主なテーマを題材として、その調査、実験、理論及び設計計算手法等を学びます。 |
| 授業の概要 | この講義では、就職活動の進捗状況等を考慮して、以下の項目を適宜実施します。 ○教科書の輪読とそのテーマの探求方法の学び ○プレゼンテーションの練習 ○文献調査 ○現地調査 ○学内・学外の研究室との合同ゼミ |

| ○授業計画 | |
|--|--------------|
| 学修内容 | 学修課題(予習・復習) |
| 第1週：ゼミナールの準備 研究室活動を始めるための準備をします。原則として、各自座席と収納棚が与えられます。 | 配付資料・演習課題の提出 |
| 第2週：ゼミナール活動の紹介 研究室におけるこれまでの活動を紹介します。 | 配付資料・演習課題の提出 |
| 第3週：ゼミナール活動の準備 教科書の全体像に関するプレゼンテーション | 配付資料・演習課題の提出 |
| 第4週：ゼミナール活動1 輪読会と課題テーマの設定① | 配付資料・演習課題の提出 |
| 第5週：ゼミナール活動2 輪読会と課題テーマの設定② | 配付資料・演習課題の提出 |
| 第6週：ゼミナール活動3 | |

| | |
|--|-----------------------------------|
| 輪読会と課題テーマの設定③ | 配付資料・演習課題の提出 |
| 第7週：ゼミナール活動4 輪読会と課題テーマの設定④ | 配付資料・演習課題の提出 |
| 第8週：ゼミナール活動5 輪読会と課題テーマの設定⑤ | 配付資料・演習課題の提出 |
| 第9週：ゼミナール活動6 輪読会と課題テーマの設定⑥ | 配付資料・演習課題の提出 |
| 第10週：ゼミナール活動7 輪読会と課題テーマの設定⑦ | 配付資料・演習課題の提出 |
| 第11週：ゼミナール活動8 輪読会と課題テーマの設定⑧ | 配付資料・演習課題の提出 |
| 第12週：研究室活動1 一例として、フィールドワークなど、専門分野に関わる研究室活動を実施します。 | 課題・自主レポートの提出 |
| 第13週：研究室活動2 一例として、フィールドワークなど、専門分野に関わる研究室活動を実施します。 | 課題・自主レポートの提出 |
| 第14週：研究室活動3 一例として、フィールドワークなど、専門分野に関わる研究室活動を実施します。 | 課題・自主レポートの提出 |
| 第15週：前期のまとめ | 総合レポートの提出 |
| 第16週： | |
| 授業の運営方法 | (1) 授業の形式 「演習等形式」 |
| | (2) 複数担当の場合の方式 |
| | (3) アクティブ・ラーニング 「アクティブ・ラーニング科目」 |
| 地域志向科目 | カテゴリー III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目 |
| 備考 | |

| | |
|----------------------|--------------------------------------|
| ○単位を修得するために達成すべき到達目標 | |
| 【関心・意欲・態度】 | ①自分の専門分野を見つけ出し、問題意識をもつ。 |
| 【知識・理解】 | ②研究室活動を体験する。 ③専門分野に関係する資格試験に挑戦する。 |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 | ④具体的なフィールドワークや実験を実践する。 |
| 【思考・判断・創造】 | ⑤専門分野への問題意識と探究心を抱くことができる。 |

| ○成績評価基準(合計100点) | | | 合計欄 | 100点 |
|---|-----------------|---------------|--------------|------|
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点 | 期末試験・中間確認等(テスト) | レポート・作品等(提出物) | 発表・その他(無形成果) | |
| 【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。 | | 10点 | 10点 | |
| 【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。 | | 15点 | 10点 | |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。 | | 20点 | 20点 | |
| 【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。 | | 10点 | 5点 | |
| (「人間力」について) | | | | |
| <p>※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p> | | | | |

| ○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安 | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価方法 | 評価の実施方法と達成水準の目安 |
| レポート・作品等(提出物) | <p>原則として毎回、講義の最後に授業内容について課題を出します。提出をもって出席に代えますので、課題が課されたら、かならず提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。</p> <p>[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。</p> |
| 発表・その他(無形成果) | <p>研究ゼミナールにおいて、プレゼンテーションおよびコミュニケーションの能力は重要です。達成水準の目安は以下の通りです。</p> <p>[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。</p> |